15. トーリック眼内レンズの術後成績

眼科学
古藪幸貴子，松島博之，永田万由美，宮下博行，後藤憲仁，妹尾　正

【目的】白内障手術術後視機能は向上する．しかし，乱視のある患者に通常の白内障手術を施行しても，メガネなしでの裸眼視力は改善し難い．乱視とは角膜の歪みや水晶体構造変化によって光が1点に結像しない状態であり，自覚的にはぶれているように見える状態である．トーリック IOL は，近年角膜乱視を軽減する目的で開発された．今回我々は，2014 年に発売された新しいトーリック眼内レンズ（TECNIS® Toric IOL，AMO 社）の早期術後成績について検討した．

【対象と方法】対象は当院で水晶体再建術を施行し，TECNIS® Toric IOL（AMO）を挿入した症例 40 例 50 眼である．術前，術後 1 日，1 週，1 か月に屈折値を測定し乱視量を求め比較した．また，術前術後の裸眼，矯正視力を比較検討した．

【結果】使用した Toric IOL の内訳は ZCT400 が 1 眼（2%），ZCT300 が 7 眼（14%），ZCT225 が 13 眼（26%），ZCT150 が 29 眼（58%）であり，弱い乱視度数の IOL が多かった．

術前角膜乱視量は 1.27±0.46D，術後屈折乱視量は術後 1 日 0.76±0.40D，術後 1 週間 0.66±0.47D，術後 1 か月 0.45±0.27D であり，術前に比べ術後すべての期間で乱視量が統計学的有意に減少した（P＜0.01）．また裸眼視力は術前 0.26（0.46），術後 1 日 0.69（0.93），術後 1 週 0.78（1.09），術後 1 ヶ月 0.86（1.18）であった．矯正視力は術前 0.46，術後 1 日 0.93，術後 1 週 1.09，術後 1 ヶ月 1.18 であった．裸眼・矯正視力ともに術前に比較し術後で統計学的有意な改善を認めた．術後 1 か月の裸眼視力 0.8 以上が 76%，0.6 以上が 92% であった．

【結論】TECNISR Toric IOL は，安定した乱視矯正効果があり，術後早期から良好な裸眼視力を得ることができる．

16. 睡眠時無呼吸を合併した家族性拡張型心筋症の一家系

内科学（心臓・血管）
福田怜子，有川拓男，春山亜希子，金田宇行，齋藤史哉，渡邉　諒，荻野幸伴，伊波　秀，天野裕久，豊田　茂，阿部七郎，井上晃男

症例は，86 歳の母親と 66 歳長女，64 歳長男，61 歳次女の家族性拡張型心筋症の家系．拡張型心筋症の診断後各々が NYHA−III, I, III および II で経過し，特に長男と母は入退院を繰り返した．長男が夜間の呼吸停止を指摘され睡眠時無呼吸の合併が疑われたのを契機に 4 名全員に PSG を施行し全員に睡眠時無呼吸の合併を認めた（各々，CSA，OSA，CSA，OSA，AHI：各々 21，40，43，47 回 / 時）．心エコー所見は以下の通りであった（LVEF：30，33，28，34%，E/A：0.74，0.80，1.2，0.9，E −DcT：277，244，156，202 msec.，E/E’ 比：35.4，14.8，24.1，15.8）．母親は当初夜間酸素吸入療法を行いその後 ASV に変更，長女と次女には CPAP 治療を，長男には ASV 治療を導入した．ASV・CPAP 治療後は心不全での入院はなく，5 年間全員 NYHAI で経過している．